



2025年3月31日

各 位

会 社 名 株式会社ファンペップ
代表者名 代表取締役社長 三好 稔美
(コード番号：4881 東証グロース)
問合せ先 取締役管理部長兼 CFO 林 毅俊
(TEL. 03-5315-4200)

フランスの公的研究機関 BIOASTER と抗体誘導ペプチドに関する共同研究契約を締結 ～ヒト B 細胞免疫応答 (抗体産生) の in vitro アッセイ法の最適化研究～

当社は、この度、フランスの感染症及び微生物学分野の最先端の公的研究機関である BIOASTER (本社：フランス・リヨン市、CEO：Dr. Xavier Morge、以下「バイオアスター」) との間で、抗体誘導ペプチド (治療用ワクチン) の抗体産生に関する in vitro アッセイ法の最適化について、共同研究契約を締結しました。本共同研究では、バイオアスターのアッセイ法開発及び技術移転の専門知識を活用して、ファンペップのワクチン候補の評価法開発を行います。

当社の抗体誘導ペプチド (治療ワクチン) の開発において、ヒトでの抗体産生を in vitro の段階で予測することが成功の鍵を握っています。この戦略的アライアンスでは、バイオアスターの最先端技術とワクチン及び免疫学における専門知識をファンペップ独自の抗原設計技術と組み合わせ、抗体機能評価において重要な一歩を示します。この共同研究は、異なる HLA 分子を持つさまざまな個人におけるファンペップの抗体誘導ペプチドの免疫応答を予測することを目的としています。そして、ファンペップの抗体誘導ペプチド技術のイノベーションに基づき、炎症性及びアレルギー性疾患に対する治療ソリューションを提供する新しい治療用ワクチンの道を開きます。

この提携形態での共同研究プロジェクトは速やかに開始される予定であり、両者は免疫学及び治療用ワクチンにおける共通の目標を達成するために、リソースと専門知識を投下する予定です。

バイオアスターの CEO、Xavier Morge は、「ファンペップと提携し、製品開発に必要な重要なアッセイを改善することで、臨床試験に最適な候補を評価・選定するのを支援できることを嬉しく思います。これは、治療用ワクチンの分野で活躍するダイナミックな企業と協力する機会です。」と述べました。

当社代表取締役社長の三好稔美は、「ワクチンおよび免疫学における豊富な知識と技術を有する研究機関であるバイオアスターと共同研究を行うことができ、大変光栄に思います。この共同研究を通じて、治療用ワクチンの効果的かつ効率的なスクリーニングを実現することを目指しています。」

なお、本共同研究により当社はバイオアスターに共同研究費を支払いますが、当社グループの 2025 年 12 月期の研究開発費の予測値に変更はありません。

【バイオアスターについて】

バイオアスターは、フランス政府及び民間企業により 2012 年に設立された非営利財団であり、微生物学、ワクチン、免疫学の最新の課題に対応するための独自の技術革新モデルを開発しています。バイオアスターは、高価値の技術革新を使用及び開発し、集団及び個別化医療のための医療ソリューションの開発を加速させています。

バイオアスターの目的は、国際的な学術及び産業企業と共同プロジェクトに取り組み、医療業界のための革新的な技術を開発及び改善することです。

主要な数字：

- ・ 4つの専門分野：抗菌剤、診断、微生物叢、ワクチン
- ・ BSL2 及び BSL3 の実験室（リヨン及びパリ）
- ・ 100 人以上の従業員（80%が科学専門家、17 の国籍）
- ・ 400 以上の研究契約（107 の民間パートナー、54 の公的パートナーを含む）。
13 の助成金及び欧州プロジェクト。

HP : www.bioaster.org

以上